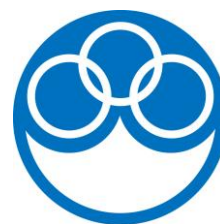




新型コロナウイルスとたばこに関するアンケート調査 報告書

令和3年5月31日

国立研究開発法人 国立がん研究センター



新型コロナウイルスとたばこに関するアンケート調査

目次

1. 調査の目的	2
2. 調査の概要	2
3. 調査結果.....	4
(1) 新型コロナ感染時の重症化について.....	4
(2) 喫煙所での感染拡大について	6
(3) 喫煙所の閉鎖、使用停止について.....	8
(4) 禁煙の取り組み	10
(5) 在宅時間の増加に伴う喫煙状況の変化.....	12
(6) 在宅時間の増加に伴う受動喫煙状況の変化.....	15
(7) 日本のたばこ対策、規制の強さ	16
4. 参考資料.....	18
(1) WHO2021 年の世界禁煙デー・テーマ.....	18
(2) 新型コロナウイルスと喫煙に関する科学的知見について、WHO のまとめ.....	20

新型コロナウイルスとたばこに関するアンケート調査

1. 調査の目的

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、感染予防のための緊急事態宣言、あるいは外出自粛や営業自粛の要請がなされてきた。人と人の接触を減らすことにより、新型コロナウイルス感染症対策を日常生活に取り入れた生活様式が推奨されてきている。

新型コロナウイルスとたばこ、あるいは喫煙については、科学的な研究により、新型コロナウイルス感染時の重症化や死亡のリスクとの関連が示されてきた一方で、生活様式の変化に伴うストレスの増加などを理由にした喫煙量の増加や、在宅時間の長期化に伴う自宅での受動喫煙の増加が懸念されている。また、新型コロナウイルスのクラスターの事例を分析した自治体から、たばこを吸うためにマスクを外す職場の喫煙所で感染が広がった可能性などが指摘されたことから、感染リスクの高い場面や行動について注意が呼びかけられている。

こうしたことから、新型コロナウイルスとたばこについて、国民の認識や理解について、喫煙者と非喫煙者とを比較できる形で情報の収集を行うことを目的に調査を実施した。また、わが国のたばこ政策や喫煙所対策への意識や、喫煙者の禁煙意向など、たばこ対策に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考にすることとした。

2. 調査の概要

- (1) 実施期間： 令和3年3月9日(火)～3月16日(火)
- (2) 実施方法： インターネット・アンケート調査
(株式会社ネオマーケティングへ委託)
- (3) 財源： 厚生労働省、国立がん研究センター委託事業費 たばこ情報収集・分析事業

(4) 回答者：

20歳以上の男女 2000 人（全回答者）を対象に、新型コロナウイルスとたばこに関する意識や認識について調査を行った。

回答者の属性は、下記のとおり。喫煙者、非喫煙者を各 1000 人とし、年代別の属性人口に応じた回答数となるようにした。

- 喫煙者 1000 人
- 非喫煙者 1000 人

人口統計および国民健康栄養調査の年代別の喫煙者割合をもとに、喫煙者および非喫煙者それぞれについて年代別の人口を推計し、人口に応じた割り付けを行った（表1）。

表 1 年代別・喫煙状況別の回答者数

	男性			女性			男女
	喫煙	非喫煙	計	喫煙	非喫煙	計	合計
20代	91	56	147	26	65	91	238
30代	129	55	184	28	73	101	285
40代	183	67	250	50	93	143	393
50代	145	66	211	58	83	141	352
60代	129	61	190	37	84	121	311
70代以上	97	115	212	27	182	209	421
合計	774	420	1194	226	580	806	2000

全体に占める割合については、喫煙率に応じた調整（ウェイトバック）を行い、わが国成人の喫煙状況の補正を行って、母集団構成比を復元した（図 1）。

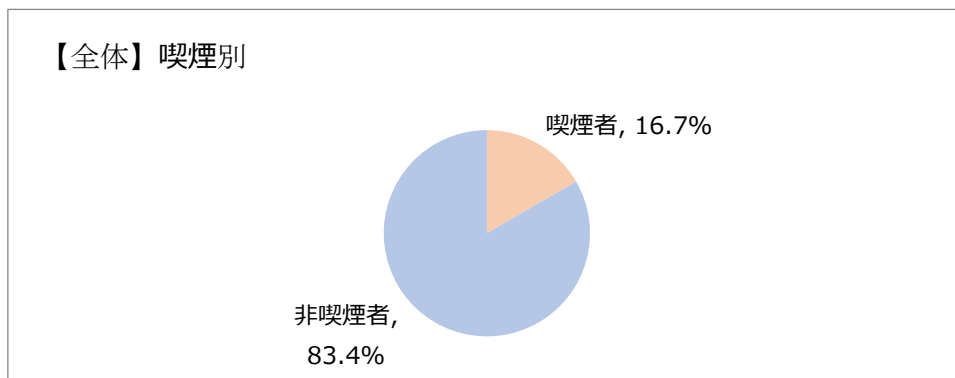


図 1 喫煙率に応じた調整（ウェイトバック）

3. 調査結果

(1) 新型コロナ感染時の重症化について

新型コロナウイルス感染時の重症化について質問した。

新型コロナウイルスに感染した際に、喫煙者は重症化しやすいと思うか聞いたところ、「重症化しやすいと思う」が 55.0%、「どちらともいえない」が 21.7%であった。一方で、「重症化しやすいと思わない」は 6.2%、「わからない」は 17.1%となった（図 2）。

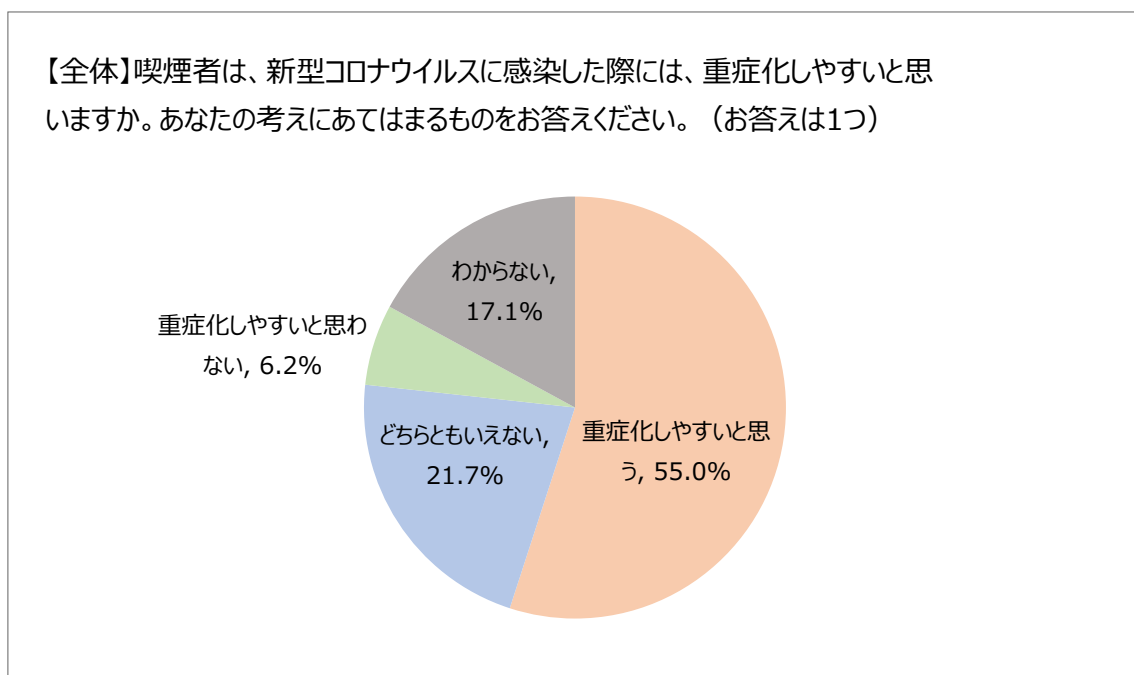


図 2 【全体】新型コロナウイルス感染で喫煙者は重症化しやすいと思うか（ウエイトバック）

喫煙者（1000 名）では、新型コロナウイルスに感染した際には、喫煙者は「重症化しやすいと思う」と回答した人の割合は 36.5%と、非喫煙者（1000 名）と比べて 20 ポイント以上低くなった（図 3、4）。

その一方で、喫煙者は「重症化しやすいと思わない」という回答は、喫煙者で 10.2%、非喫煙者で 5.4%とそれほど大きい差は見られない結果となった。喫煙者では「どちらとも言えない」という回答が、非喫煙者の倍以上で 20 ポイント高くなっていることも、興味深い結果である。喫煙者への普及啓発が、新型コロナウイルス対策としても、喫煙対策としても重要といえる。

【喫煙者回答】喫煙者は、新型コロナウイルスに感染した際には、重症化しやすいと思いますか。あなたの考えにあてはまるものをお答えください。（お答えは1つ）

(N=1000)

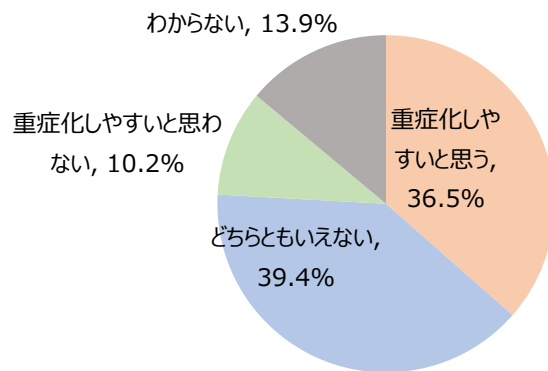


図3 【喫煙者】新型コロナウイルス感染で喫煙者は重症化しやすいと思うか

【非喫煙者回答】喫煙者は、新型コロナウイルスに感染した際には、重症化しやすいと思いますか。あなたの考えにあてはまるものをお答えください。（お答えは1つ）

(N=1000)

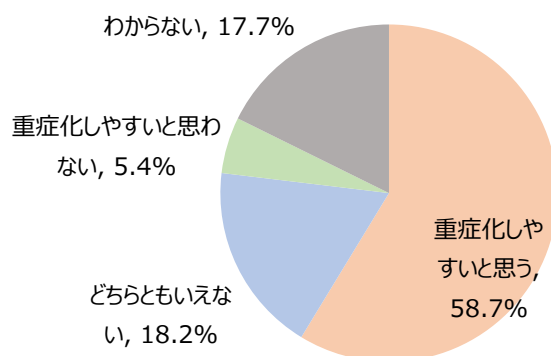


図4 【非喫煙者】新型コロナウイルス感染で喫煙者は重症化しやすいと思うか

（２）喫煙所での感染拡大について

続いて、喫煙所での感染拡大について質問した。

喫煙所を利用する際、たばこを吸うためにマスクを外したり、鼻や口からずらしたりする。また、狭い喫煙所の中は喫煙者で密になりやすく、喫煙室内で感染した事例も報告されている。

そこで、喫煙所が新型コロナウイルスの感染が拡大しやすい場所と思うか聞いたところ、全体では「感染しやすい場所だと思う」が 59.4%となった。逆に「感染しやすい場所だと思わない」という回答は、わずか 5.9%に過ぎなかった（図５）。

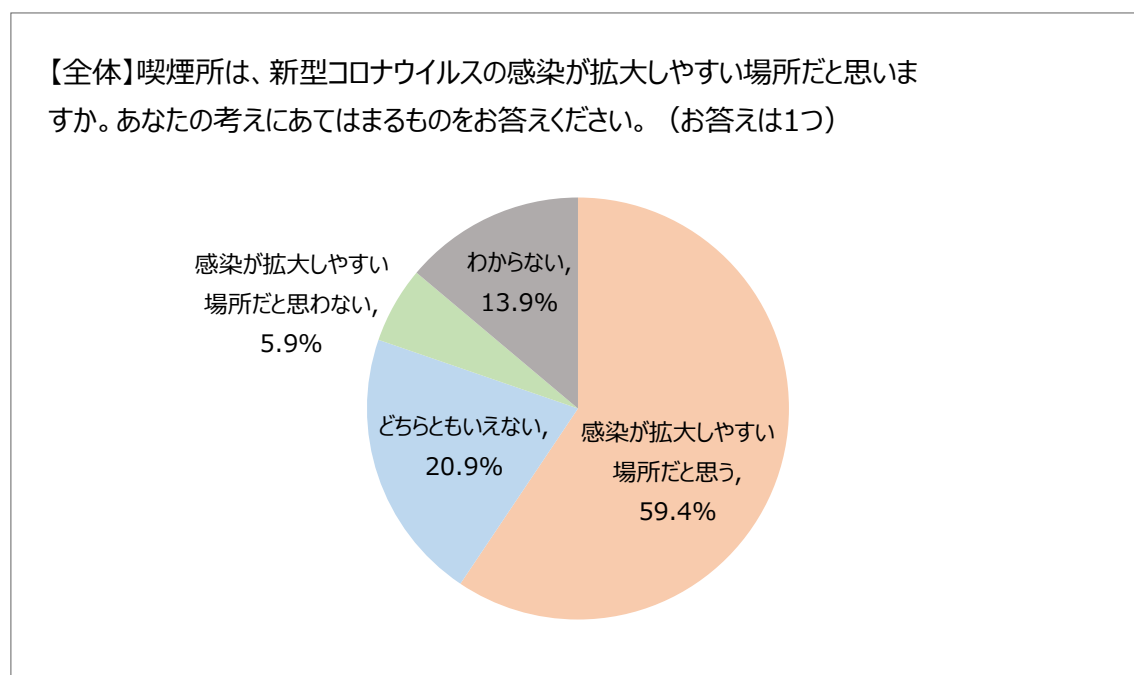


図５ 【全体】喫煙所は感染拡大しやすい場所と思うか（ウエイトバック）

喫煙者（1000 人）に、喫煙所が新型コロナウイルスの感染が拡大しやすい場所と思うか聞いたところ、「感染が拡大しやすい場所だと思う」は 39.4、「どちらともいえない」は 37.3%、「感染が拡大しやすい場所だと思わない」は 13.1%となった（図６）。

非喫煙者（1000 人）では、「感染が拡大しやすい場所だと思う」が 63.4%、「どちらともいえない」が 17.6%、「感染しやすい場所だと思わない」が 4.4%であった（図７）。非喫煙者では、喫煙者よりも「感染しやすい場所だと思う」人の割合が約 25 ポイント高い結果となった。

喫煙者は非喫煙者に比べ、喫煙所・喫煙室での感染拡大についての認識が甘いことがうかがえるため、喫煙者への普及啓発による理解促進が重要であろう。

【喫煙者】喫煙所は、新型コロナウイルスの感染が拡大しやすい場所だと思いますか。あなたの考えにあてはまるものをお答えください。（お答えは1つ）
(N=1000)

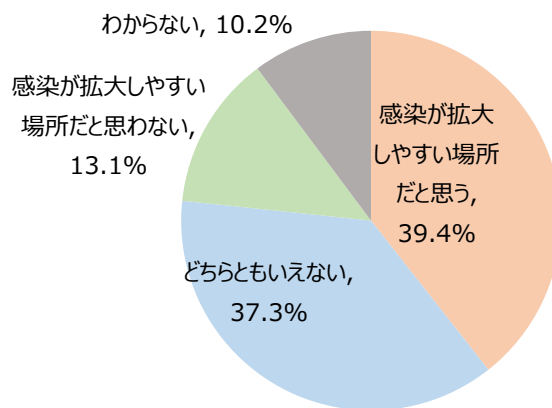


図6 【喫煙者】喫煙所は感染拡大しやすい場所と思うか

【非喫煙者】喫煙所は、新型コロナウイルスの感染が拡大しやすい場所だと思いますか。あなたの考えにあてはまるものをお答えください。（お答えは1つ）
(N=1000)

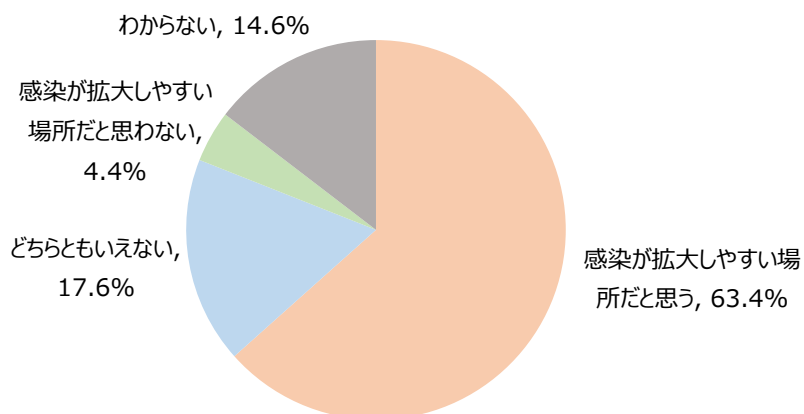


図7 【非喫煙者】喫煙所は感染拡大しやすい場所と思うか

（３）喫煙所の閉鎖、使用停止について

次に、新型コロナウイルス対策の一環として、喫煙所や喫煙室を閉鎖、あるいは使用停止にすることについての認識を質問した。

昨年来、新型コロナウイルスの感染が拡大してから、屋外の公衆喫煙所や、屋内の喫煙室を施設管理者が閉鎖、あるいは使用停止にするケースが多く見られてきた。このような喫煙所、喫煙室の閉鎖、使用停止についてどのように思うか聞いたところ、全体では「賛成」は 58.3%、「どちらともいえない」23.0%、「反対」8.5%となった（図 8）。賛成が過半数と高い割合出会ったのに対し、反対はわずか 8.5%、賛成と反対の差が約 50 ポイントと、喫煙所の閉鎖や使用停止については国民の理解が得られているようだ。

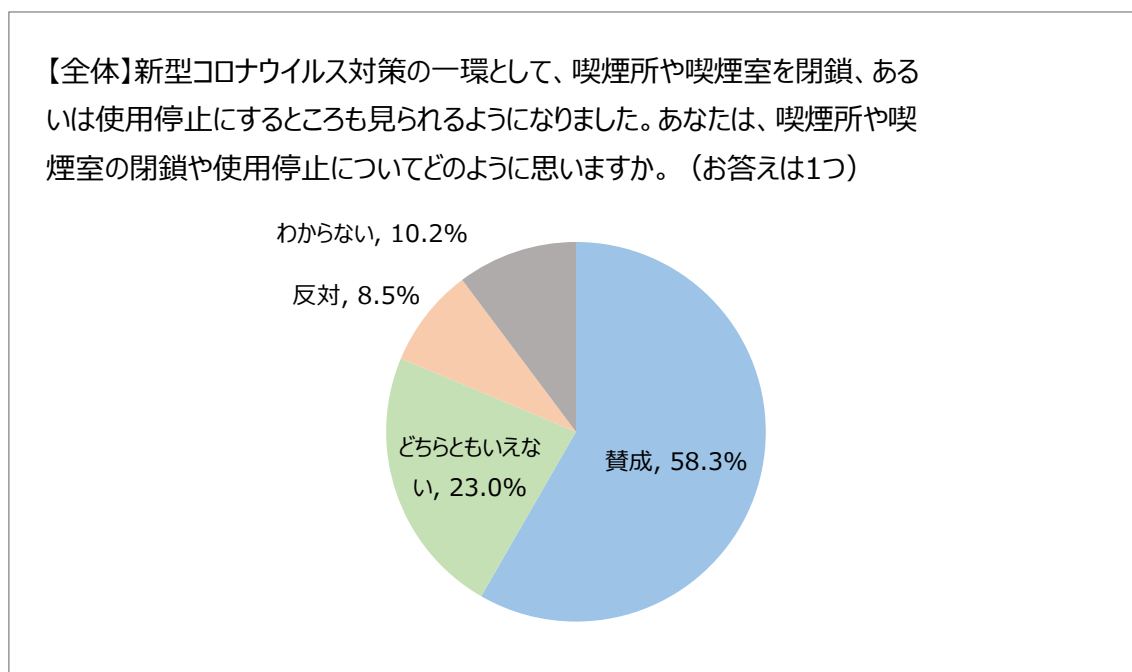


図 8 【全体】喫煙所・喫煙室の閉鎖・使用停止についてどう思うか（ウエイトバック）

喫煙者（1000 人）では、新型コロナウイルス対策の一環として、喫煙所や喫煙室の閉鎖や使用停止について、「賛成」が 30.4%、「どちらともいえない」が 32.5%、「反対」が 31.2%と、ほぼ三分に意見がわかれる回答結果となった（図 9）。

その一方で、非喫煙者（1000 人）では、「賛成」が 63.9%と高い割合となった。「どちらともいえない」は 21.1%、反対はわずかに 3.9%となっていた（図 10）。

【喫煙者回答】新型コロナウイルス対策の一環として、喫煙所や喫煙室を閉鎖、あるいは使用停止にすることも見られるようになりました。あなたは、喫煙所や喫煙室の閉鎖や使用停止についてどのように思いますか。（お答えは1つ）（N=1000）

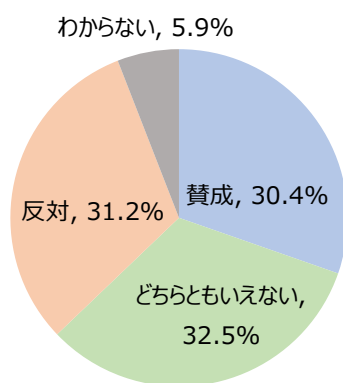


図9 【喫煙者】喫煙所・喫煙室の閉鎖・使用停止についてどう思うか

【非喫煙者回答】新型コロナウイルス対策の一環として、喫煙所や喫煙室を閉鎖、あるいは使用停止にすることも見られるようになりました。あなたは、喫煙所や喫煙室の閉鎖や使用停止についてどのように思いますか。（お答えは1つ）（N=1000）

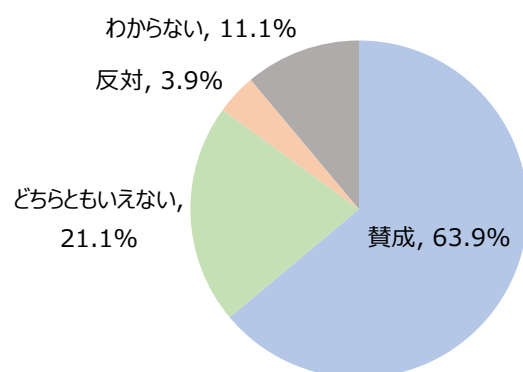


図10 【非喫煙者】喫煙所・喫煙室の閉鎖・使用停止についてどう思うか

(4) 禁煙の取り組み

新型コロナウイルス禍の状況下、禁煙に取り組みたいと思っている喫煙者はどのくらいいるのだろうか。

たばこを「ほぼ毎日吸っている」「ときどき吸っている」と回答した喫煙者（1000 人）に、新型コロナウイルス感染時の重症化リスク低減に向け、あなたは禁煙に取り組みたいと思うか聞いたところ、「禁煙に取り組みたいと思う」は 25.3%、「どちらともいえない」は 33.8%、「禁煙に取り組みたいと思わない」は 36.4%となった（図 11）。

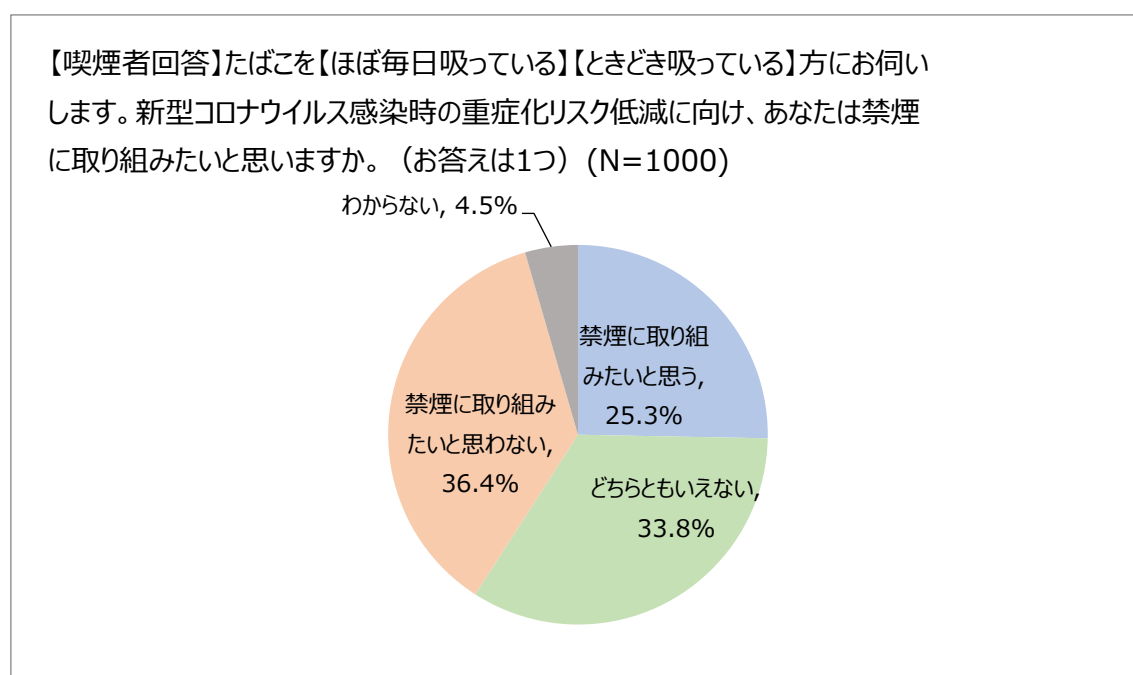


図 11 【喫煙者】新型コロナウイルス感染時の重症化リスク低減のため、禁煙に取り組みたいと思うか

さらに、「禁煙に取り組みたい」と回答した喫煙者（253 人）に対して、いつから禁煙に取り組みたいか聞いたところ、「今すぐ」が 40.3%、「一ヶ月以内」が 27.3%、「6 ヶ月以内」が 12.3%、「6 ヶ月以上先」が 0.4%、「未定」が 19.8%となった（図 12）。

人の行動への準備性についてのステージ分類では、1 ヶ月以内に禁煙しようと考えているステージを「準備期」、6 ヶ月以内に禁煙しようとしているが 1 ヶ月以内でないステージを「関心期」、6 ヶ月以内に禁煙する気がないステージを「無関心期」としている。ステージ分類ごとの回答者割合は、準備期が 67.6%と最も高くなっていた。準備期にある喫煙者に禁煙を促し、具体的な禁煙につなげていくことが求められる。

【喫煙者回答】新型コロナウイルス感染時の重症化リスク低減に向け、【禁煙に取り組みたいと思う】方にお伺いします。あなたは、いつから禁煙に取り組みたいです。 (お答えは1つ)
(N=253)

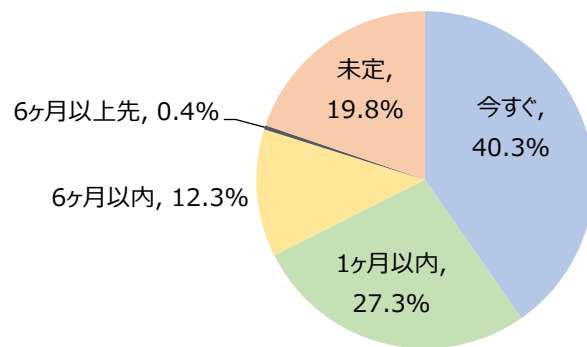


図 12 【喫煙者で、禁煙に取り組みたいと思う方】いつから禁煙に取り組みたいと思うか

表 2 変容ステージごとの割合

ステージ		回答区分	回答者数	回答者割合
準備期	1ヶ月以内に禁煙したい	「今すぐ」「1ヶ月以内」	171	67.6%
関心期	6ヶ月以内に禁煙したい が1ヶ月以内ではない	「6ヶ月以内」	31	12.3%
無関心期	6ヶ月以内に禁煙する気 がない	「6ヶ月以上先」「未定」	51	20.2%
合計			253	100%

（５）在宅時間の増加に伴う喫煙状況の変化

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、感染予防のためのステイホームが推奨されるとともに、企業によっては在宅勤務の推進が行われてきている。

そこで、喫煙者（1000 人）を対象に、新型コロナウイルスの感染拡大に伴うステイホームや在宅勤務などによって、喫煙本数や喫煙量が増えているか質問した。「増えている」と回答したのは 18.0%、「変わらない」が 69.6%、「減っている」は 11.4%、「（ほぼ）やめることができた」は 1.0%であった（図 13）。在宅時間の増加によって喫煙本数や喫煙量が増えているとの懸念があるが、回答を見る限り、喫煙本数や喫煙量が「増えている」という回答はそれほど多くなく、「変わらない」という喫煙者が多いようである。

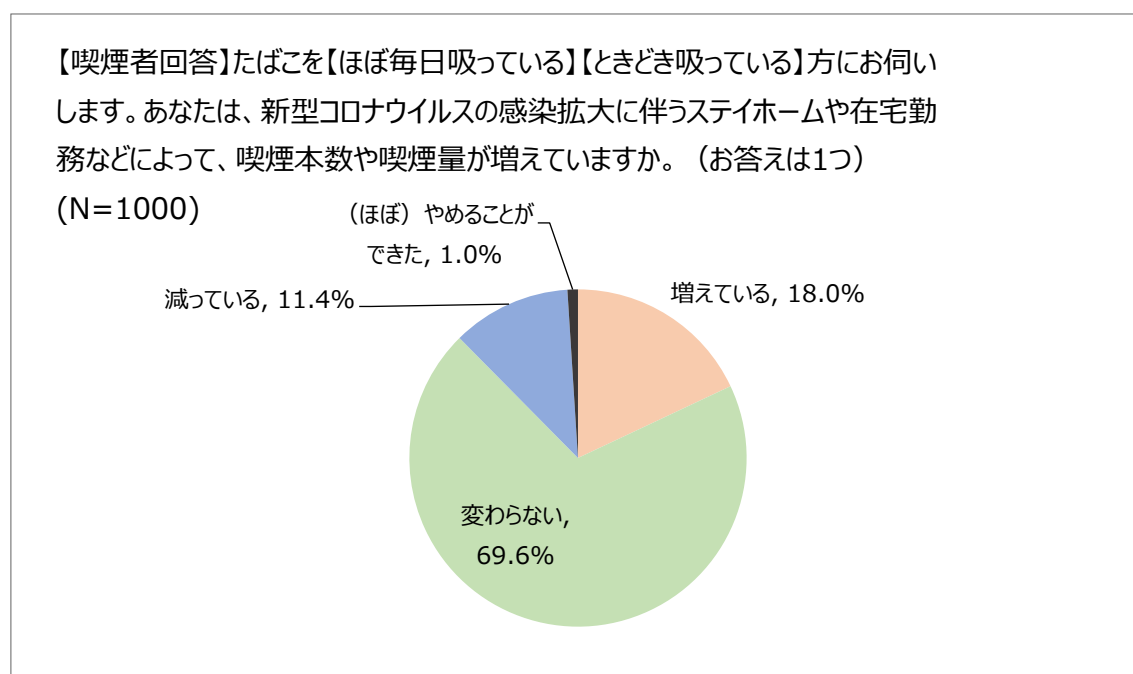


図 13 【喫煙者】在宅時間の増加によって喫煙本数や喫煙量が増えているか

在宅時間の増加によって喫煙が「増えている」と答えた喫煙者（180 人）に対して、喫煙が増えた最も大きな原因が何か質問したところ、「感染リスク増大あるいは日常生活や社会環境の変化に伴うストレスの増加のため」をあげた人は 49.4%と最も高く、次いで「職場は禁煙となっているが、自宅は制約がないため（環境要因）」をあげた人 33.9%、「職場では周囲の目が気になるが、自宅では周囲の目がきにならないため（人的要因）」をあげた人 10.0%の順となっていた（図 14）。

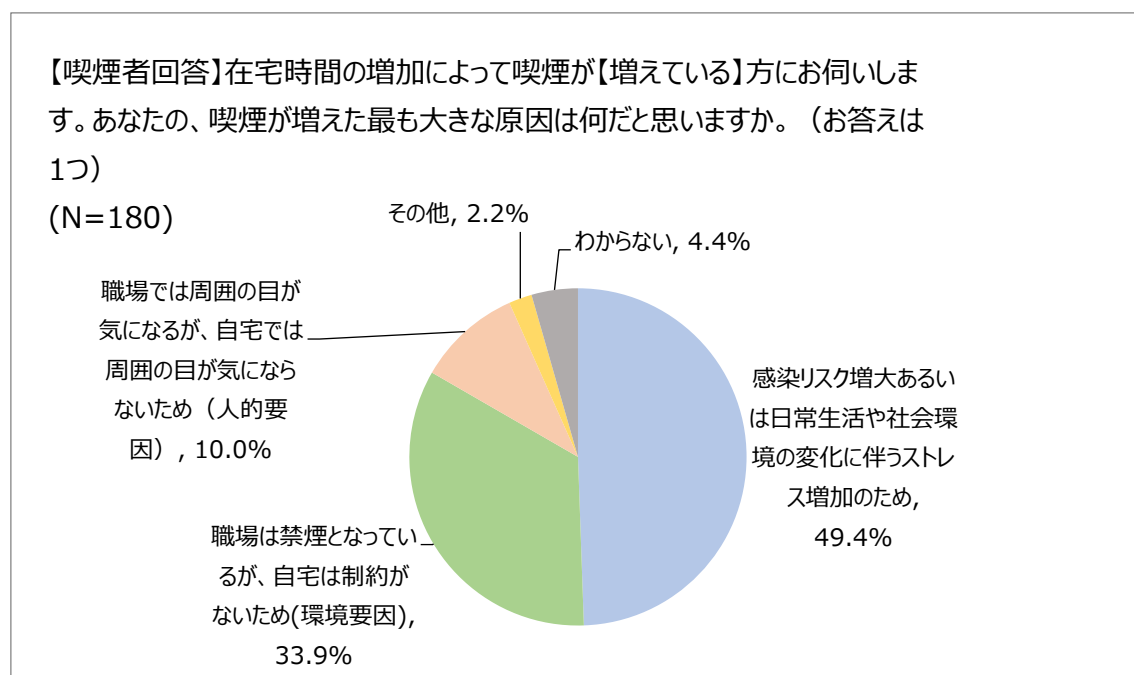


図 14 【喫煙者で、在宅時間の増加に伴って喫煙が増えている方】喫煙が増えた最も大きな原因

逆に、在宅時間の増加によって喫煙が「減っている」と答えた喫煙者（124 人）に対して、喫煙が減っている、あるいは、（ほぼ）やめることができた最も大きな原因が何か質問したところ、「飲み会や会食などがなくなり、喫煙する機会が減ったため」を理由にあげた人は 29.8%と最も高く、次いで「自宅では家族の目が気になるあるいは家族を受動喫煙から守りたいため（人的要因）」をあげた人 19.4%、「自宅では喫煙環境がないため（環境要因）」をあげた人 14.5%の順となっていた（図 14）。その一方で、「感染症による重症化がこわいから」を原因とする回答は 12.9%と少なくなっていた。

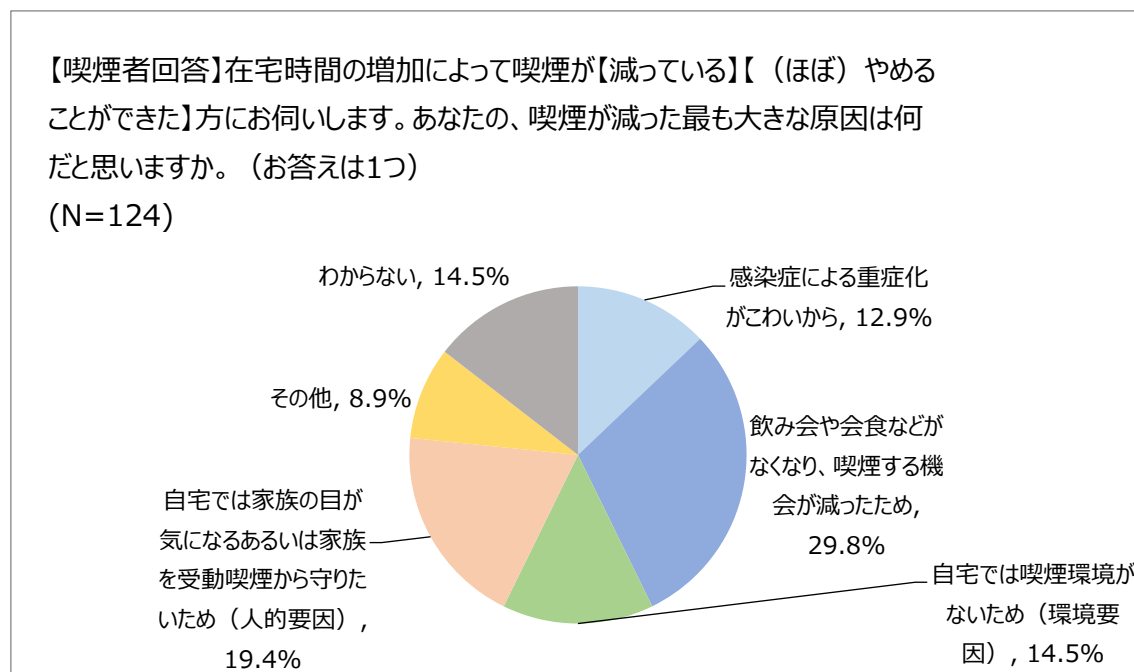


図 14 【喫煙者で、在宅時間の増加に伴って喫煙が減っている方】喫煙が減った最も大きな原因

（６）在宅時間の増加に伴う受動喫煙状況の変化

次に、新型コロナウイルスの感染拡大に伴うステイホームや在宅勤務などによって、同居人の喫煙による受動喫煙が増えているか質問した。

回答は非喫煙者の 818 人（81.8%）から得られ、「増えている」と回答したのは 10.6%、「変わらない」が 19.3%、「減っている」は 1.6%、「喫煙する同居人はいない」は 68.5%であった（図 15）。

喫煙する同居人はいないという回答を除き、喫煙する同居人がいる人の中の割合で見ると、受動喫煙が「増えている」という回答は 34%になり、新型コロナウイルスの感染拡大に伴うステイホームや在宅勤務などによって同居人の喫煙による受動喫煙が増えている人が相当程度いることをうかがわせる結果であった。

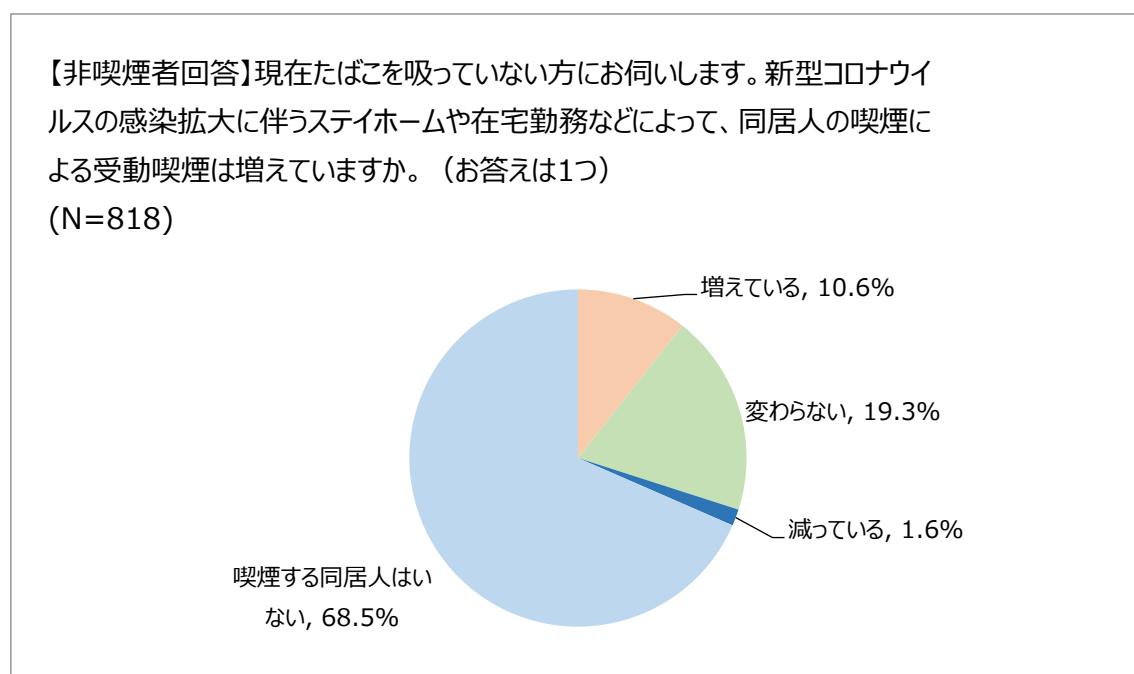


図 15 【非喫煙者】在宅時間の増加により同居人の喫煙による受動喫煙が増えているか

（７）日本のたばこ対策、規制の強さ

日本のたばこ対策について規制の強さをどのように考えるか、甘すぎる（０）から厳しすぎる（１０）まで 11 段階で強さの度合いを聞いたところ、全体では、甘すぎる「０」が 15.0%、「１」が 12.4%、「２」が 9.3%、「３」が 11.5%、「４」が 6.4%で、０～４を合計した「甘い（計）」は 54.6%となった（図 16）。逆に、６～１０ を合計した「厳しい（計）」は 15.5%であった。全体で見れば、わが国のたばこ対策については、規制が甘いと評価する人が多いようだ。

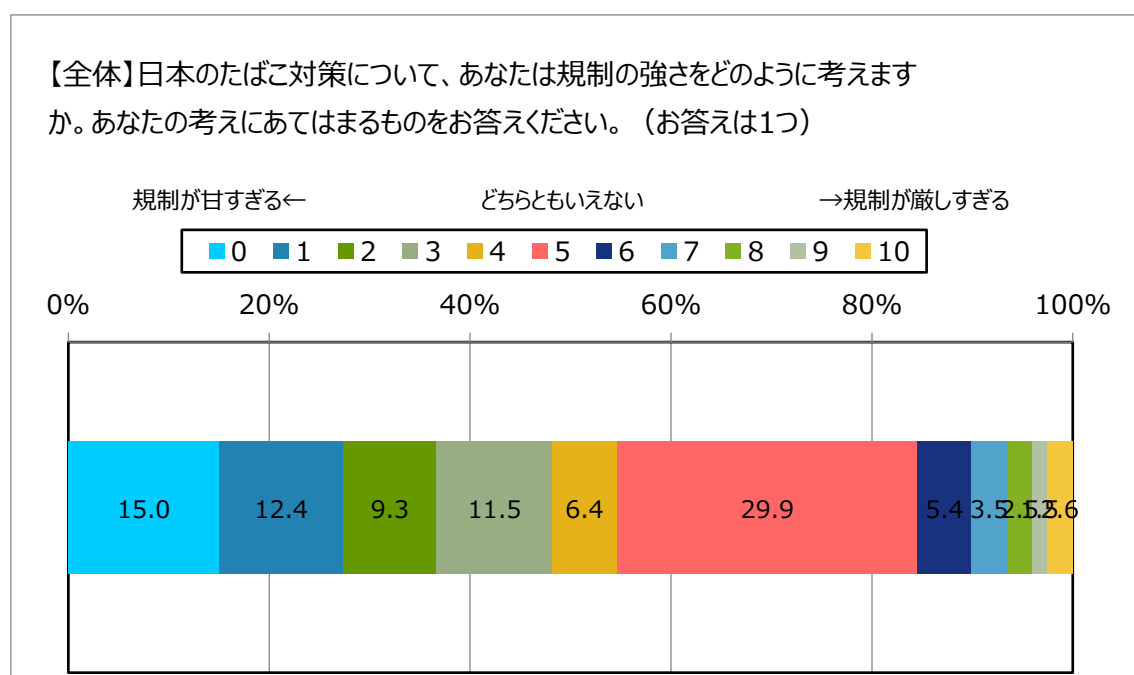


図 16 【全体】日本のたばこ対策について規制の強さをどのように考えるか（ウエイトバック）

一方、喫煙者では、甘すぎる「０」が 1.9%、「１」が 3.4%、「２」が 3.6%、「３」が 4.6%、「４」が 5.2%で、０～４ を合計した「甘い（計）」が 18.7%しかなく、逆に、厳しすぎる「１０」が 11.1%、「９」が 7.7%、「８」が 9.4%、「７」が 9.8%、「６」が 7.7%で、６～１０ を合計した「厳しい（計）」が 45.7%に達する結果であった（図 17）。

非喫煙者は対照的に、甘すぎる「０」が 17.6%、「１」が 14.2%、「２」が 10.4%、「３」が 12.9%、「４」が 6.7%で、０～４ を合計した「甘い（計）」が 61.8%にも及び、反対に ６～１０ を合計した「厳しい（計）」がわずか 9.4%に過ぎなかった（図 18）。

【喫煙者回答】日本のたばこ対策について、あなたは規制の強さをどのように考えますか。あなたの考えにあてはまるものをお答えください。（お答えは1つ）

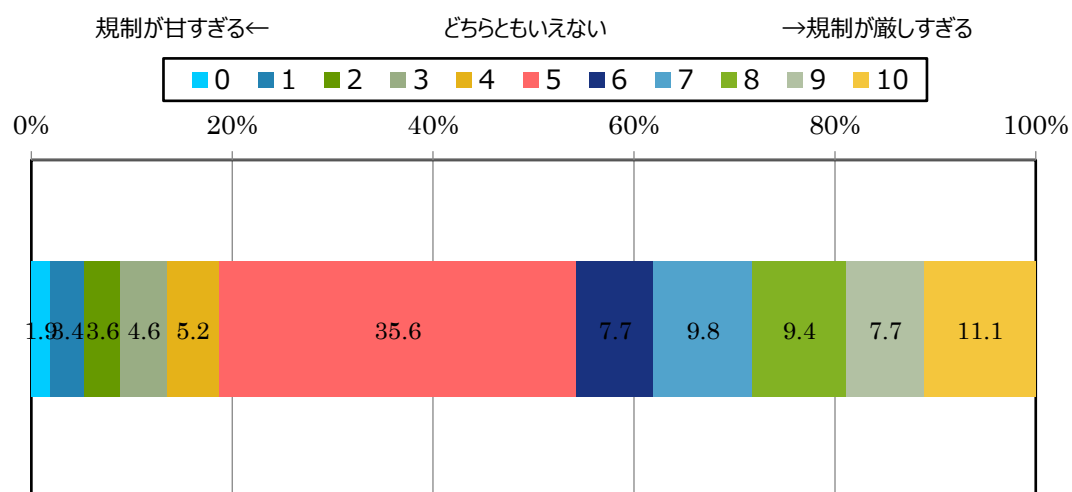


図 17 【喫煙者】日本のたばこ対策について規制の強さをどのように考えるか

【非喫煙者回答】日本のたばこ対策について、あなたは規制の強さをどのように考えますか。あなたの考えにあてはまるものをお答えください。（お答えは1つ）

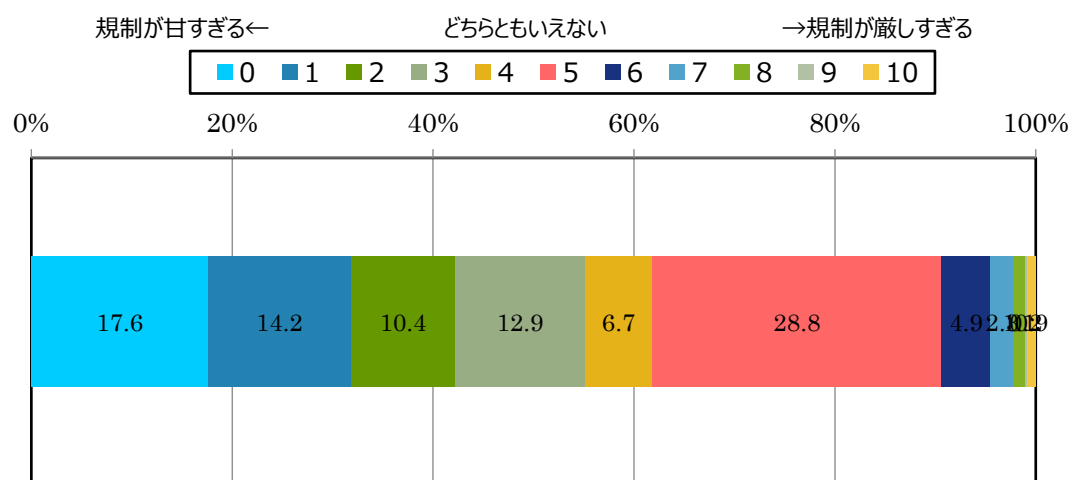


図 17 【非喫煙者】日本のたばこ対策について規制の強さをどのように考えるか

4. 参考資料

(1) WHO2021 年の世界禁煙デー・テーマ

禁煙にコミットする

新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的感染拡大により、何百万人もの喫煙者が禁煙しようとしています。今日、禁煙宣言にサインしよう。

今日、禁煙を宣言しよう！

Commit to quit

The COVID-19 pandemic has led to millions of tobacco users saying they want to quit. Commit to quit today and sign the pledge.

Pledge to quit today!

<https://www.who.int/campaigns/world-no-tobacco-day/world-no-tobacco-day-2021>

また、WHO は「タバコをやめる 100 以上の理由」を昨年末、公表している。

その中では、「喫煙者が非喫煙者と比較して新型コロナウイルス（COVID-19）で重篤な疾患を発症する可能性が高いという証拠が発表されたとき、何百万人もの喫煙者がタバコをやめたいと思うようになった。特に世界的に感染拡大した結果として、社会的および経済的ストレスが加わったため、禁煙するのは難しい場合があるが、禁煙する理由はたくさんある。」としている。

その一つ目として、新型コロナウイルスの重症化および、死亡リスクを挙げている。

1.喫煙者は、重症の症例を発症し、COVID-19 で死亡するリスクが高くなります。



たばこ産業が肺を脆弱にしているところに、
新型コロナウイルス（COVID-19）が肺を狙い撃ち

<https://www.who.int/news-room/spotlight/more-than-100-reasons-to-quit-tobacco>

（２）新型コロナウイルスと喫煙に関する科学的知見について、WHO のまとめ

WHO は昨年初めと中頃に、喫煙者が新型コロナウイルス（COVID-19）による重篤な疾患と死亡を発症するリスクが高いことを示す科学的概要を発表した。喫煙は、心血管疾患、癌、呼吸器疾患、糖尿病などの非感染性疾患の主要な危険因子でもあり、さらに、これらの持病をもって生活している人々は、COVID-19 に対してより脆弱で、感染時には重症化しやすくなる。

科学的なレビューを行った昨年 6 月末の時点で、入手可能な科学的根拠からは、喫煙が入院中の COVID-19 患者の病気と死亡の重症度の増加に関連していることを示唆している。重症度に関連している可能性があるが、COVID-19 による入院または SARS-CoV-2 による感染のリスクを定量化する証拠はピアレビューされた文献で見つからなかった。

喫煙と感染時の死亡や重症化のリスク：	関連が示唆された
喫煙と感染のリスク：	根拠文献が見つからなかった

これに基づいて、WHO は以下の事項を推奨している。

喫煙と受動喫煙による科学的に明らかとなっている健康被害を考えると、WHO は喫煙者に禁煙を推奨している。喫煙者の禁煙を支援する実証済みの介入には、フリーダイヤルの禁煙電話相談、モバイルテキストメッセージの禁煙プログラム、ニコチン置換療法、その他の承認された薬物療法が含まれる。

<https://www.who.int/news-room/commentaries/detail/smoking-and-covid-19>